

幼児の体験活動事業

「36の基本的な動きを取り入れた幼児の運動遊び」

1. 趣旨 幼児期に必要とされる多様な動きの獲得や、体力・運動能力の基礎を培うことを目的として平成27年度に機構本部で開発した「36の基本的な動き」を取り入れ、宮城県内等の幼稚園、保育園、家庭において普及する。

2. 委員会 「幼児の体験活動推進委員会～幼児の運動プログラム普及事業～」

推進委員：宮城県志津川自然の家 主任主査 森 美紀子
 宮城県松島自然の家 所長 狩野 秀之
 宮城県蔵王自然の家 主査 黒須 美恵
 山形県神室少年自然の家 研修主事 福澤 徹
 青森県梵珠少年自然の家 社会教育主事 佐藤 元伸
 国立花山青少年自然の家 所長 松村 純子
 // 企画指導専門職 奥山 洋・島貫 織江

3. 事業の概要 (1) 試行事業協力幼稚園・保育園

	日時	園名・対象者	参加者	幼児+大人
1	9月30日(金)	私立さくら幼稚園の年長児	72人	59人+13人
2	10月26日(水)	社会福祉法人涌津保育園の年中児	30人	26人+4人
3	10月28日(金)	公立新田幼稚園の年中・年長児	49人	41人+8人
4	1月7日(土) ～8日(日)	私立さくら幼稚園の年中児及び その保護者	122人	60人+62人
5	1月31日(火)	公立大貫幼稚園の年長児	16人	11人+5人
6	2月11日(土)	社会福祉法人北上幼稚園の年中児 及びその保護者	55人	24人+31人
7	3月10日(金) ～11日(土)	社会福祉法人保育所森のくまさん年長児	28人	23人+5人
合計			372人	244人+128人

4. 企画・運営のポイント

- ①近隣市の幼稚園長会・保育園長会に出向き、「36の基本的な動きを取り入れた幼児の運動遊び」について説明を行い、試行園の協力を募った。
- ②幼稚園教諭及び保育士が子ども達と一緒に当日活動を行えるよう、事前に試行園に出向き、幼稚園教諭及び保育士に直接「36の基本的な動きを取り入れた幼児の運動遊び」について説明を行った。

5. 日程 (1) 日帰り (例)

10:00	10:30	12:00	13:00	14:00	14:30
到着	挨拶	36の基本的な動き (雪上・フィールド)	昼食	36の基本的な動き (室内)	挨拶 出発

(2) 1泊2日 (例)

	午前		午後		夜間				
1日目		到着	弁当	36の基本的な動き (フィールド・雪上)	テオ リ シ ョ ン	夕食	入浴	自由時間	就寝
2日目	朝食 つどい	36の基本的な動き (室内)	昼食	出発					

6. 主な活動内容



リックを守ろう



リックと木登り



トンネルくぐり



雪上ひっぱり相撲

7. 成果・課題

(1) 試行実施した園の指導者の声

- ①木登りは普段できないことなので、とても人気があり喜んでいました。(リックと木登り)
- ②土俵の印やロープ等の「場」作りがなされており、子供たちはすごく楽しそうでした。(雪上ひっぱり相撲)

(2) 成果

- ①試行事業ではあるが、372人の幼児とその保護者及び指導者が「36の動きを取り入れた幼児の運動遊び」を体験することができた。
- ②幼児の体験活動推進委員会の推進委員の所属する青少年教育施設で、「36の動きを取り入れた幼児の運動遊び」を普及できた。

(3) 課題

- ①施設職員の誰でもが、「36の基本的な動きを取り入れた運動遊び」の指導者及び広報者になれるよう本事業の共通理解を図る必要がある。
- ②「36の基本的な動きを取り入れた幼児の運動遊び」を普及していく為には、指導者の体験会の実施が必要であると感じた。

(4) 活用事例

「幼児の体験活動推進委員会～幼児の運動プログラム普及事業～」において、山形県神室少年自然の家の主催事業及び受け入れ事業で実施した旨の報告を受けた。

担当：所長 松村 純子